

医療現場を変革する日本発の手術ロボット

— 日本製手術ロボットの開発事情と臨床医学側の意見が聞ける —

21世紀初頭に出現した米国製手術ロボット「ダビンチ」は、従来の外科の常識を変革するという点で、外科医に衝撃を与えました。それから20年、**日本発の手術ロボット**が続々と出現しております。40年間がん治療を中心に取り組んでいる「がん集学財団」では、がん治療としての手術ロボットに注目し、日本発の手術ロボットの講演会を開催致します。

日時 令和4年8月3日（水）
16:00～19:10

ミニ懇親会あり（名刺交換会・飲み物・お菓子提供）

会場

日本橋ライフサイエンス
ビルディング2F（201会議室）
東京都中央区日本橋本町2-3-11

参加費

前売り **8,000円**/当日10,000円

カンファレンスパークより前売りのみカード決済可能

お申込

カンファレンスパークより
会員登録の上、お申込み下さい

講演
1



医工連携により開発したがん
治療のための針穿刺ロボット

平木 隆夫 先生

岡山大学学術研究院医歯薬学域教授
がん集学的治療研究財団評議員/
医療機器委員会委員

講演
2



大学発ベンチャーによる
手術支援ロボットの開発

川嶋 健嗣 先生

東京大学大学院情報理工学研究所
システム情報学専攻教授
リバーフィールド株式会社
エグゼクティブアドバイザー

パネルディスカッション

— テーマ —

手術ロボットは、今後どのように
臨床現場を変革するか

— パネリスト —

宇山一朗 先生 / 川嶋健嗣 先生 / 平木隆夫 先生



宇山 一朗 先生

藤田医科大学医学部先端ロボット・
内視鏡手術学講座・主任教授
がん集学的治療研究財団評議員/
医療機器委員会顧問



がん集学的治療研究財団
理事長 山岸 久一
京都市立医科大学名誉教授

当財団は40年以上、がんの臨床研究を通じて全国1000の医療機関とのネットワークを有していることから、医療現場の声を医療機器開発に取り組む企業に届ける事を目的として医療機器事業を開始しました。この講演会では、最先端の医療機器で、かつ日本製の手術ロボットを取り上げ、開発の中心者である川嶋先生と平木先生のご講演と「ダビンチ」を日本に導入した先駆者である宇山先生とのパネル討論をお聞きできる貴重な講演会になります。



がん集学的治療研究財団理事
医療機器委員長 谷下 一夫
日本医工ものづくりコモンズ理事長

今回の講演会のテーマである「日本発の手術ロボット」は、日本独自の技術シーズによって、医療現場で活かされる有用な医療技術として創出されました。メディカロイド社の火の鳥に続いて、リバーフィールド社の手術ロボット、病変部位を的確に狙う事が出来る熱焼灼ロボットが出現しております。これらのロボットが、今後どのように医療現場を変革して行くのか、がん治療やロボット工学の第一人者の先生方に議論して頂きます。